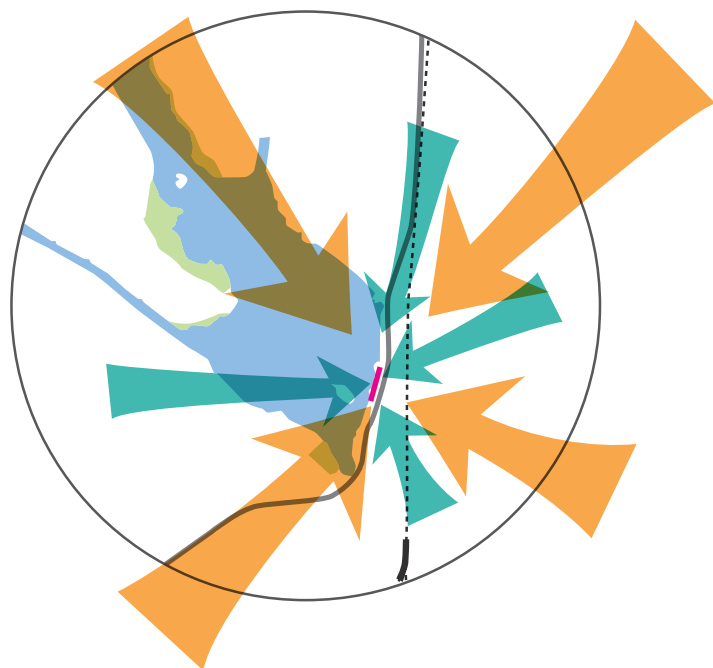




ROADSIDE STATION

2-3-A. 道の駅をつくる



1. 地域の人々が自然に集う居場所へ

2. 地域の名物をPRする道の駅へ

3. 遠方から人々がやってくる名所へ

地元の人々で賑わう道の駅へ

勉強や宿題をしたり、ママ友との会話に花を咲かせたり、友達と将棋をさしたり。地域の人々が日常生活の中で、自然に集う居場所が私たちの暮らしには必要です。なにも買わない人も思い思いに集い、自分の時間や友達との時間を過ごすことができる居場所となる。先ず第一に地域の人々に愛され日常的に使われるような道の駅を目指します。

第二に、道の駅の性質上、多くの乗用車やトラックが立寄ることになります。ふらっと立寄った来訪者に対し、地域の名物を楽しんでいただく場所へ。地元住民が自然に利用する道の駅だからこそ、既存の道の駅にはない独自性があると考えています。その独自性で地域発信力を上げる仕組みが必要です。

そして最終的には牛久沼を愉しむ人々の起点としての道の駅を目指します。牛久沼には、美しい夕陽や水上スポーツを楽しめる水辺、手付かずの自然環境など、観光地としてポテンシャルがあります。日常の憩いの空間になるだけでなく、遠方から人々がわざわざやってくる名所として、様々な人の来訪が望めます。現在は活かしきれていない牛久沼の賑わいをつくる、はじまりの一手として道の駅を位置づけています。

賑わいイメージ

サンストリート亀戸 一街の居間一



年間イベント回数 **700**回

年間来場者数 **1,000**万人

広場を中心とした低層の商業施設。広場では定期的にイベントが開催されたり、子どものための遊び場が設置され、ものを買う人も買わない人も思い思いに集い、時間を過ごすことができる居場所となった。より生活者の「日常」に特化した場所として、人々に愛されていた。



「日常空間」と「休日の賑わい」 双方に対応できる可変的な道の駅へ

地域住民が日常的に自然に集まる場として、カフェのようにおしゃべりや勉強ができたり、友達と集まって将棋やゲームができるなど、老若男女問わず思い思いの時間を過ごせる空間が必要です。

また、道の駅の中に自由な活動ができるスペースを用意するだけでなく、外部空間でのアクティビティを促進するプログラムも必要になってきます。内部空間と外部空間が自然に繋がる、居心地の良い空間構成を計画することで、来場する人々の利活用を促進していきます。さらに、名所としての発信力を上げるため、日曜日やフリーマーケットなどの各種イベントを開催しやすい広場や、地域住民が主体的に活動や発表ができる場、名物である夕陽を楽しむことのできる設えなど、賑わいを創出する外部空間計画が必要です。内部空間と外部空間、双方の利用を促進する可変的な道の駅を目指します。

賑わいイメージ

徳島新町ボードウォーク 一街の居間一



全長 **290m**
出店者数 **50店舗**

毎週土曜日と日曜日には新町ボードウォークパラソルショップ（非常設のパラソルの下に設置される店）が並び、多いときには50店ほどの店が並びます。北西端は傾斜のついた野外ステージがあり、ダンスショーやジャズ演奏などのイベントも頻繁に行われています。



日常

産直市・イベント・
おしゃべり・読書・勉強・ゲーム・
練習・ネットサーフィン
動画撮影・動画鑑賞・仕事・
休憩・犬の散歩・夕陽・etc

休日

日曜日・フリーマーケット・
ワークショップ
各種イベント・物産・発表会
休憩・夕陽・水辺・自然・
キャンプ・スポーツ・etc

道の駅に求められる環境要素

道の駅の必需品

消費や住み方が時代や土地に合わせて変わるようにパブリックスペースも時代に合わせて変化します。今回のプロジェクトは牛久沼周辺エリアが本来もち得る自然環境のポテンシャルを掘り起こし、他の道の駅では実現できない常識にとらわれないスペースを創るべきだと考えます。これからのニーズに最大限対応できる必要な環境要素が望まれます。

インフォメーションを兼ねたカフェ



牛久沼と夕陽を見渡せる休憩スペース



日当たりがいい場所は全て座席



屋外でも使えるインフラ



自然環境を感じる駐車場



ペットを連れてこれる環境



自然を感じることができるトイレ



自然の素材を活かしたファニチャー



主役は 牛久沼 水辺に ひらいた 道の駅へ



イメージ



現状

道の駅の最大の特徴は牛久沼に面した親水エリアであることです。国道側からの見え方も重要ですが水辺側から見た表情は何よりも重要な要素だと考えます。牛久沼からみた表情が豊かなことだけでなく、水辺を気持ちよく眺める設え、水辺を積極的に愉しむ仕掛けなど、ここでしか実現できない道の駅を目指します。

道の駅のコンセプトイメージ（休日マーケット）

週末には地域の 「とれたて」が並ぶ パラソルマーケット



現状



イメージ

道の駅のコンセプトイメージ（水際）



現状

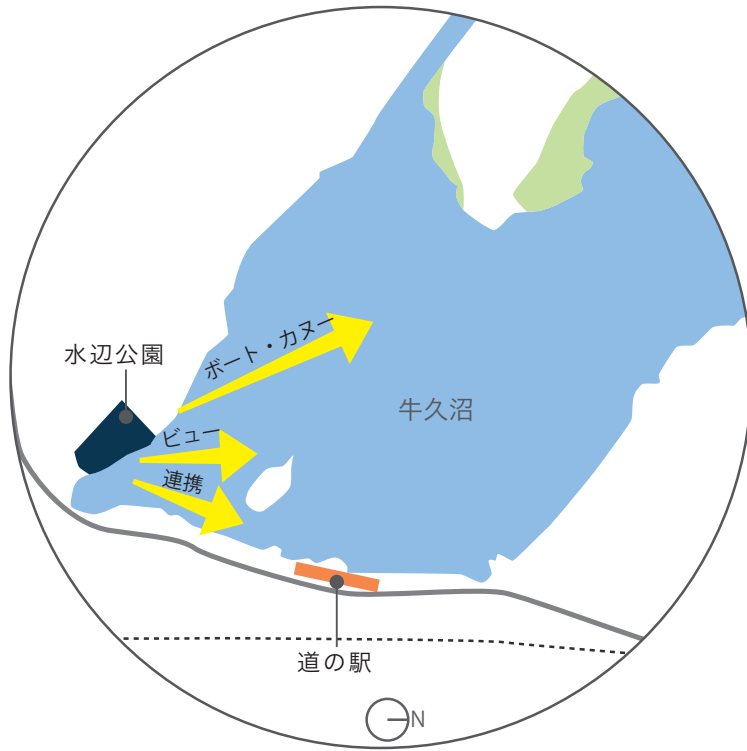
一日の終り、太陽が西へ沈む時
道の駅は「夕焼け劇場」に変わる



MIZUBE PARK

2-3-B. 水辺公園をつくる

水辺公園の方向性



1.水上スポーツの発着点

2.牛久沼を眺めて愉しむ

3.道の駅との連携

広場は成熟社会の必需品

牛久沼に隣接する水辺公園は道の駅のアクティビティと連携しながらも、その広大な敷地を活かしたのびのびとした活用のありかたを提案します。

朝日が正面に見えるこの広場では早朝のラジオ体操やヨガなどの毎日できる健康的なアクティビティからはじまり、日中はピクニックやお昼寝や釣りなど、消費をしない人も気兼ねなく利用できる自由度の高い広場をつくります。

公園の一部にはボートハウス&カフェを設置しボートやカヌーの発着点とします。将来的には道の駅とボートで行き来できるような連携も。ボートハウスやカフェの売上の一部は公園の管理に使用する仕組みを導入するなど、官民協働でより良い広場づくりを目指します。

アクティビティイメージ



ヨガ

ラジオ体操

ピクニック

ボートハウス

オープンカフェ

賑わいイメージ

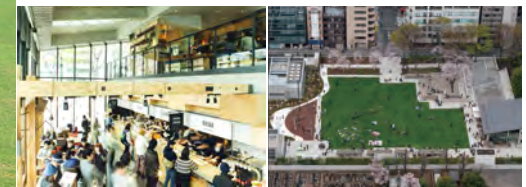
南池袋公園 ー新しい仕組みの広場ー



官民協働でより良い公園づくり

カフェが公園管理を担う

公園の管理者である行政、公園内のカフェを運営する地元業者、周辺に住んでいる利用者が集まり、公園運営を行うことで、より良い公園づくりを実現しています。またカフェは、売上の0.5%を公園運営に使い、公園のゴミ回収やトイレ掃除を行う仕組みになっています。



水辺公園のコンセプトイメージ（水辺エリア）



現状 **道の駅と連携する水上スポーツの発着点へ**

水辺公園のコンセプトイメージ（芝生エリア）



イメージ



現状

牛久沼を一望できる丘をシンボルへ